

平成26年春の外国人叙勲
ケント・アイリング・カルダー・ジョンズ・ホプキンス大学
ライシャワー東アジア研究センター長の旭日中綬章受章

平成26年4月29日
在米国日本大使館

平成26年4月29日（日本時間）、日本政府は、平成26年春の外国人叙勲として55名の受章者を発表し、その中でケント・アイリング・カルダー・ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワー東アジア研究センター長への叙勲が決定しました。同氏は、アメリカ合衆国における日本研究の発展及び相互理解の促進に寄与した功績が認められ、旭日中綬章を受章しました。

- 賞賜： 旭日中綬章
- 功績概要： アメリカ合衆国における日本研究の発展及び相互理解の促進に寄与
- 氏名： ケント・アイリング・カルダー（Kent Eyring Calder）（男，66歳）
- 主要経歴：
 - 元 ハーバード大学日米プログラム事務局長（初代）
 - 元 プリンストン大学日米プログラム事務局長（初代）
 - 元 戦略国際問題研究所日本部長
 - 元 駐日米国大使特別補佐官
 - 現 ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワー東アジア研究センター長
 - 現 プリンストン大学名誉教授
- 国籍・現住所：アメリカ合衆国・コロンビア特別区ワシントン

カルダー氏は、ユタ大学政治学部卒業後、ハーバード大学大学院修士課程及び博士課程を修了しました。昭和49年から昭和54年にかけて、研究のため日本に滞在し、日本の政官財界で広い人脈を構築しました。昭和54年にハーバード大学初代日米プログラム事務局長及び政治学部講師に就任し、その後、昭和58年より平成14年までプリンストン大学ウィルソン公共政策大学院で助教授、同教授をそれぞれ歴任しました。平成元年から5年の間及び平成8年には、戦略国際問題研究所日本部長も務め、多くの米政府・議会・軍関係者の対日理解を促進し、米政府の円滑な対日政策の推進に影響を与

えました。

平成9年から平成13年までは、フォーリー駐日大使特別補佐官として、日本の専門家として日米関係の強化、相互理解に貢献しました。日本国内でも高い評価を得ており、その後の歴代の駐日大使特別補佐官の模範としても尊敬を集めています。平成15年より、ジョーンズ・ホプキンス大学教授及び同大学大学院ライシャワー東アジア研究所長を務めています。

カルダー氏は、日米安保をめぐる両国内の政治状況、自民党長期政権の功績などを分析した研究著書を持つ米国における日本政治研究の第一人者です。カルダー氏は、日本政治につき活発な執筆を行ってきており、米国内における対日理解の増進に努めています。日本国内でも、カルダー氏の日本政治に関する研究は高い評価を得ており、大平正芳賞（1990年）、有沢広巳賞（1990年）、毎日アジア太平洋大賞（1997年）など、数多くの受賞歴を誇っています。日本語も堪能で、日本メディアにも頻繁に出演しています。

また、カルダー氏は、各大学で34年間にわたり日米関係に関する講義を担当してきており、さらに、各大学で開催してきたシンポジウムや論文等の発表を通して、将来において米政権内で対日政策に関わる人材育成に多大な貢献をしてきています。教え子の数は数百名に及び、米国内における多くの知日派育成に貢献し、日米同盟の土台となる人的交流と信頼醸成の促進に大きな役割を果たしてきています。

(了)